

台湾の国魚、サラマオマスを調べる

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 俊平 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009766

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



台湾の国魚、サラマオマス进行调查

さけます資源研究部 ふ化放流技術開発グループ 主任研究員 佐藤 俊平



台湾に分布する貴重なさけ・ます類であるサラマオマスについて、 現地の研究者と共同で調査を行いました

サラマオマス (Formosa salmon, *Oncorhynchus masou formosanus*) は1917年(大正6年)、当時の台湾総督府技師の青木赳夫氏により発見され、1919年(大正8年)に大島正満博士およびD.S. Jordan博士により新種記載されました。現在はサクラマス^{シマサケ}の亜種に位置づけられていますが、その分布は台湾のごく一部に限られており、貴重な個体群といえます。そのためサラマオマスは台湾において「国魚」とされ、国の宝として手厚く保護されています。学術的には日本・ロシアのサクラマスとサラマオマスを遺伝的に比較することで、サクラマス群の遺伝構造についてより理解が進むと考えられます。今回、現地の研究者と共同で行ったサラマオマス調査の様子を簡単にご紹介します。

調査は2016年11月8日～11月10日に実施しました。日本側からは中央水産研究所の山本祥一郎主任研究員と筆者、台湾側からはサラマオマス研究の第一人者である国立台湾海洋大学の郭金泉教授とスタッフ2名が参加しました。サラマオマスの生息地は、台北市から車で4時間程度、海拔約2,000mに位置する雪霸国立公園内を流れる河川の支流の一部区間(約7km)になります。生息場所への立ち入りは厳しく規制されており、あらかじめ台湾当局から発給された許可証を持っていないと川に近づくことすらできません。今回の調査場所は川幅が3～5m程度で流れは速いものの、水深は浅く透明度が非常に高いため、川岸から遊泳しているサラマオマスを確認できるほどでした。一方、河岸にはカバーとなる大きな木や草は生えておらず、河川内にも倒木等のサラマオマスが隠れ家として利用できそうな場所はほとんど無いことから(写真1)、日本のヤマメが生息する河川とは大分違う印象を受けました。

調査は日中行い、日本から持参した投網を用いて合計58個体のサラマオマスを捕獲しました。魚体を取り上げることができないため、捕獲個体に麻酔をかけ、雌雄判別、尾叉長・体重の計測、魚体の撮影、遺伝標本の採集などを行い、調査後はすべて再放流しました。捕獲したサラマオマスは尾叉長25cm前後の個体が多く(写真2)、30cmを越える何個体もいくつか見られました。一方、尾叉長20cm以下の個体はほとんど捕獲されませんでした。調査を行った時期はサラマオマスの産卵期であったことから、ほとんどの個体が成熟していました。サラマオマスの外見は北海道のヤマメとほとんど同じでしたが、下あごが上あごよりも若干長い「受け口」の様な形をしている個体が多い印象を受けました(写真2右下)。その理由は不明ですが、

サラマオマスと日本のヤマメの生息環境や利用する餌生物の違いなどが影響している可能性が考えられます。また郭教授によると、サラマオマスとサクラマスは脊椎骨数や軟条数に違いがあり、区別できるそうです。サラマオマス以外では苦花 (*Varicorhinus barbatulus*) というコイ科の魚が多数採集されました。

サラマオマスは絶滅危惧種であることから、これまでは少数の個体がひっそりと生息しているイメージを持っていましたが、実際は開放的な場所のあちこちで多くの個体が遊泳しており、意外でした。また、雪霸国立公園は台湾有数の観光地でもあることから、調査中も多くの観光客がサラマオマスの観察場所に指定された場所を訪れ、その姿を探しているのも印象的でした。一方、サラマオマスに関する科学的データはまだ不足しており、継続的な調査・研究が必要ではないかとも感じました。今後は、得られたデータや遺伝標本の分析を進め、サラマオマスを含むサクラマス群の遺伝構造をより詳細に明らかにするとともに、その成果を日本系サクラマス資源の維持・管理に役立てていきたいと考えています。

※本調査は科学研究費助成事業(課題番号JP16K07884)により実施されました。



写真1 調査を行った支流の様子 流れが速く透明度が高いが、カバーとなる草木や隠れ場所となる倒木などが見られない



写真2 採集されたサラマオマス 尾叉長約23cm (右下)サラマオマスの「受け口」